⑫ 公 開 特 許 公 報 (A)

昭62-196132

(全2頁)

@Int Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

❸公開 昭和62年(1987)8月29日

B 32 B 3/12

6617-4F

審査請求 未請求 発明の数 1

図発明の名称

ハニカム構造体の成形方法

②特 願 昭61-37835

②出 願 昭61(1986)2月22日

砂発 明 者 上

詖

静岡県磐田郡豊田町富丘926-1

砂発明者 内田

浜松市楊子町476-1

⑪出 願 人 鈴木自動車工業株式会

静岡県浜名郡可美村高塚300番地

社

⑩代理 人 弁理士 萼 優美

出

外1名

明 細 和

1 発明の名称

ハニカム構造体の成形方法

2. 特許請求の範囲

(1) ハニカム構造体の製造工程におけるアウタスキン層の貼着前の過程において、曲げる部分のヘニカムコアにブラステック材を充填し、そのあとアウタスキン層を貼着し、次に前記プラスチック材を充填した部分で折り曲げることを特徴とするハニカム構造体の成形方法。

(産業上の利用分野)

本発明は、ハニカム構造体(ハニカムサンド イッチ材)を曲げるための成形方法に関するも のである。

(従来の技術)

ハニカム構造体は軽量でありながら大きな強 度が得られるので、自動車や自動二輪車の車体 の一部に使用するとよい。このように自動車や 自動二輪車の車体に使用するためには平板形状 のみでは都合が悪いので適当な角度、たとえば 直角に曲げる必要が生ずることがある。

(発明が解決しようとする問題点)

上配従来の技術では、第2図の方法の場合、
① アウタスキン層のみに力が加わることになる
ために完成後の強度が大きくとれない。②また
第2図のものと第3図のものに共通する事項と
して接着が困難。③完成品において力の加わる
方向性が問題となる。というような解決すべき

BEST AVAILABLE COPY

課題が残されていた。本発明はこの点を解決するために成されたものである。

(問題点を解決するための手段)

本発明は上配①~③の問題を解失するための 手段として、ハニカム構造体の製造工程におけるアクタスキン層の貼着前の過程において、曲 げる部分のハニカムコアにプラスチック材を充 壊し、そのあとアウタスキン層を貼着し、次に 前記プラスチック材を充填した部分で折り曲げるようにしたものである。

(作用)

このような成形方法とすれば、 ヘニカムコア にプラスチック材が入つているために、 曲げ部 のハニカムコアが不適当に曲がることなく、 適当な方向に、コア材としての補強の役割りを保ちつつ、曲がることになる。

(突施例)

以下、本発明の一実施例を第1図について脱明すると、ハニカム構造体の製造工程におけるアウタスキン暦2を貼着する前の過程(a)におい

また外観に切断のあとがでないので、なめらか に仕上げられることになる。

4.図面の簡単な説明

第1図は本発明によるハニカム構造体の成形 方法を示す工程説明図、第2図かよび第3図は 従来の成形方法を示す工程説明図である。

1 … ヘニカムコア
 2 … アウタスキン店
 3 … インナスキン居
 8 … プラスチックサ

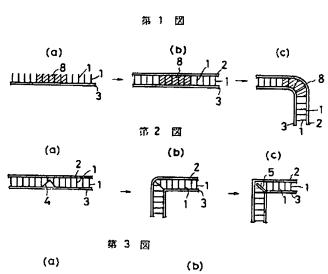
停許出願人 鈴木自動車工業株式会社

代理人 弁理士 夢 優

美(ほか1名)

(発明の効果)

本発明は以上説明したように構成したもので あるから、ハニカム構造体を、強度を失なうと となく曲げることが可能となる。そして従来の ように補強材との接着方法を考えなくてよく、



7 2 1 3

1~ハニカムコア

2… アウタスキン暦

3…インナスキン層

8…プラステックオオ